



令和5年度対エルサルバドル共和国 草の根・人間の安全保障無償資金協力 「コンセプション・バトレス市エル・パライスル村 上水道施設整備計画」引渡し式の開催



2026年9月24日、前田慎司参事官は、サンティアゴ・マルティネス・ボニージャ東ウスルタン市長、サミール・ラモス・ワールドビジョン現地運営コーディネーター、ワルテル・クルスラ・アレネラ地域村落開発協会長、そして、地域住民たちと共に、「東ウスルタン市コンセプション・バトレス区に位置するエル・パライスル村上水道施設整備計画」の引渡し式に出席した。

新しく建設された上水道施設により、コミュニティの104世帯に飲料水が直接かつ安全に供給され、282人が恩恵を受けることになる。コミュニティの多くの家庭には上水道が引かれていなかったため、洗濯や入浴といった日常生活、さらには飲料水のためにさえも日に数回30分から1時間かけて共同井戸から水を運んできていた。



❖ エルサルバドルの国樹であるマキラシユアをエルサルバドルと日本の友好と協力の証として植樹した。

❖ 東ウスルタン市コンセプション・バトレス区エル・パライスル村上水道施設での開栓。

日本大使館はこうした状況を踏まえ、草の根・人間の安全保障無償資金協力（APCS）を通じて、健康と福祉において同国で最も問題を抱えるコミュニティを対象にエルサルバドル人の生活の質の向上に貢献することを目的としている。大使館は本計画を遂行するにあたり、106,462米ドルを供与し、井戸や変圧器のある敷地の防護フェンスの供給と設置、ポンプ機器制御小屋の建設、配水網（4,338メートル）の設置、UPVC管および水圧調整バルブ、50GPM水中ポンプ（5馬力）や周波数変換器、圧力トランスデューサを含む直結ポンプ場の供給と設置、施工監督と外部監査。の代金に使用された。

東ウスルタン市コンセプション・バトレス区から3,500米ドルの資金協力を得て、詳細設計の作成、計画看板や記念プレートの設置が行われた。国際NGOワールド・ビジョンからは17,889.10米ドルの供与を受け、15KVAの変圧、35フィートの金属製柱、金属製管とPVC管を含む配水網、UPVCパイプの供給を含む直結ポンプ場を支援した。コミュニティからは、井戸周辺の保護フェンスの供給と設置、ポンプ設備制御小屋の建設、配水網（4,338m）の設置、各戸レベルの配水管接続と水道メーターの取り付け、作業を行うための貴重な非熟練労働力を提供し、その額は43,674.20米ドル相当に上った。

最終的に本案件の総額は171,525.30米ドルとなった。

ラ・アレネラ村落開発協会のリーダーシップとその絶え間ない努力、常にエルサルバドルコミュニティをサポートするワールドビジョンに心から感謝の意を表したい。この地域にはコミュニティの井戸が一つしかなく、各家庭が井戸まで往復するのにかかる平均時間は30～60分で、1日に2～3回水を汲む必要がありこれは住民にとって大きな負担であった。さらに、コミュニティ井戸から遠方の家庭は運搬業者に月額約30米ドルを支払って水を運んでもらい、経済的に大きな負担となっていた。本プロジェクトにより上水道設備が整備されることで、住民にとって大きな助けになると信じている。1990年から、「誰一人取り残さない」というスローガンのもと、日本はエルサルバドルで459件のコミュニティプロジェクトに貢献し、4000万ドル以上の投資を行ってきた。そのすべてにおいて最も重要なことは日本の支援ではなく、皆さんが代表するエルサルバドルコミュニティの自助努力精神である。日本はエルサルバドルの人々の友人として、これからもより繁栄し持続可能な未来のために、エルサルバドルのコミュニティに協力し続ける。

以前その地域では雨水に頼る生活をしていたが、我々は水がきちんと届くように協力しそれが大きく改善され、人々に喜ばれている。我々にとって上水道システム全体を改善し人々に給水することは非常に重要であり、ここラ・アレネラ地区も多分に漏れない。私は市役所で働く前、この地域の人々と集まったことがあるが、当時住民は既にこのプロジェクトに取り組んでおり、これを実現するために頑張ろうと私は言ったものだ。その後市役所に入り本案件とともに進み、大変だったことを覚えている。皆さんに伝えたいのは、すべての関係者の団結が非常に重要だということである。

山あり谷ありの長い道のりであった。常に私たちの神の加護、支援者のサポート、そして何よりこの重要なサービスを利用できることを望んでいたすべての受益者の協力姿勢があったからこそ、本日それが現実となった。我々コミュニティはこの上水道施設を大切に使用していく。これは我々の子どもやその子孫に受け継がれるものであり、これほどの規模の施設であることから尊重され、十分に大切にされるべきである。今回のプロジェクトで104家族が恩恵を受け、本日から生活に欠かせない、特に健康にとって重要なサービスを我々は利用できるようになった。本コミュニティを構成するこの大家族を代表して、皆様の制約のない支援に心から感謝申し上げます。

水のあるところには、より良い健康状態とより良い教育環境、そして全体的な幸福もある。だからこそ、我々は喜んでこのパートナーシップに貢献することに賛同した。再度証明されたことは、私たちが団結し、話し合い、努力を同じ方向に向けるとき、大きな目標を達成できるということである。ワールドビジョンにとって、104世帯だけが生命の源である水の恩恵を受けるのではなく、近隣コミュニティにとって見習うことのできる模範となり、彼らも目標を達成できる可能性があるということである。特筆したいのは、本コミュニティは組織され、管理され、すべての取り組みを支え、単にインフラ整備だけでなく子どもたちの生活環境をより良くするために取り組んできたことである。本地区やウスルタン県周辺で10年以上にわたり、プログラムやプロジェクトを通じてワールドビジョンは努力してきた。



在エルサルバドル日本国大使館が「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて実施している案件は、「人間の安全保障」の概念である「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」のもと、エルサルバドル国民、特に国内で最も脆弱な地域の生活環境の質を改善しようと試みるものです。